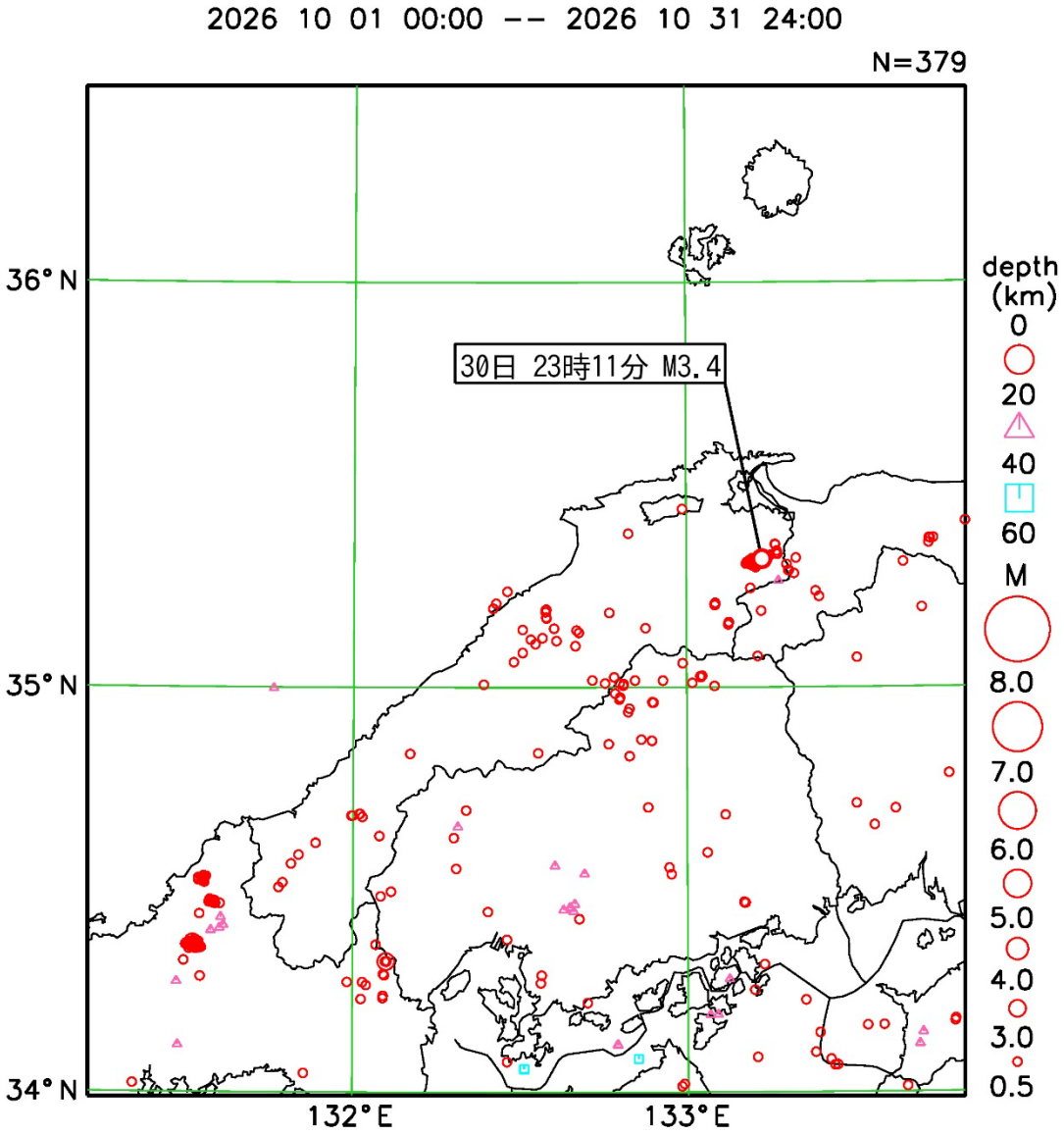
島　根　県　の　地　震

令和８（2026）年10月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。
　また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動
2026年10月１日～31日



［概況］

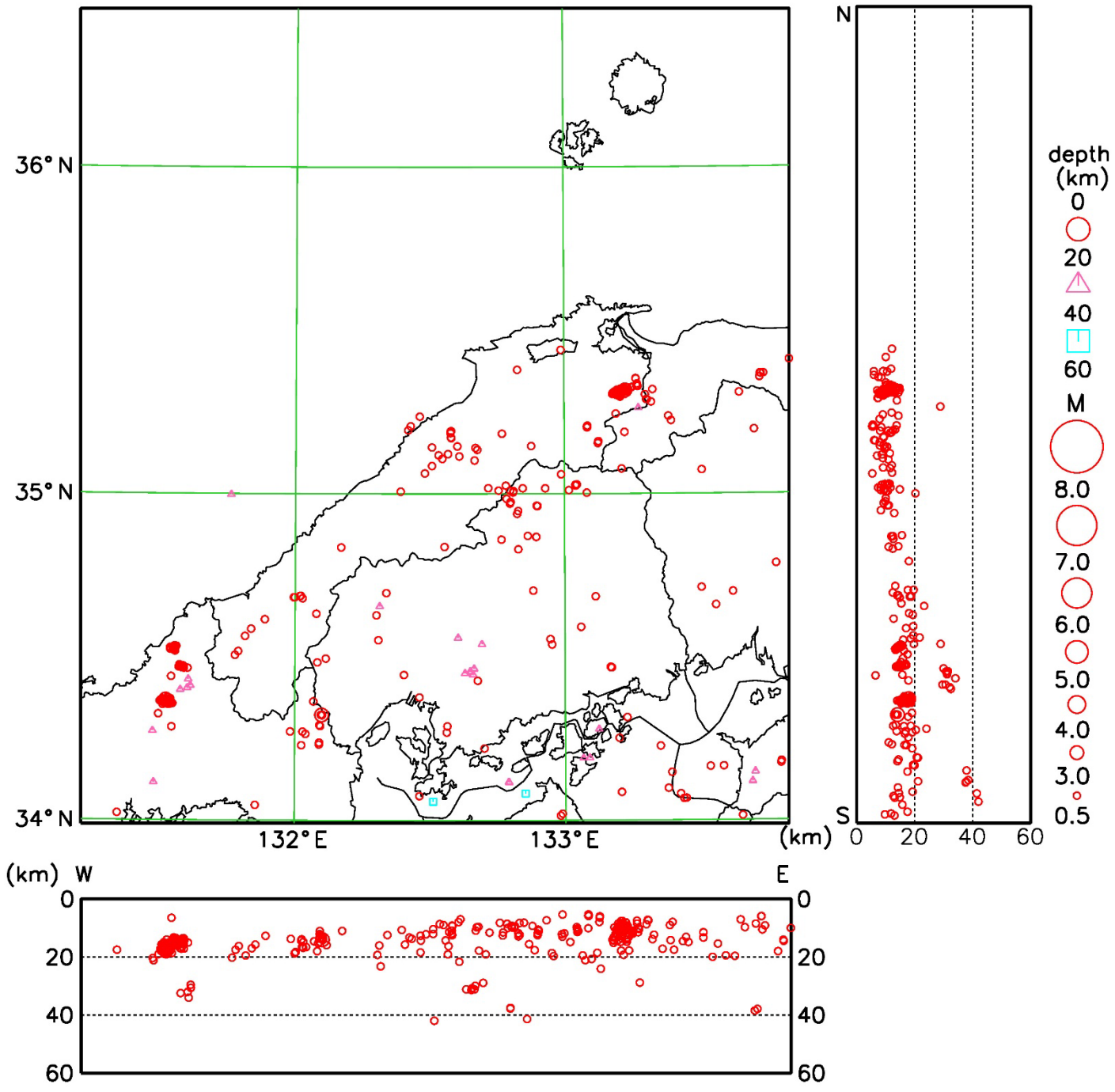
今期間、M0.5以上を観測した地震は379回（９月は528回）でした。

また、島根県内で震度１以上を観測した地震は、１回でした。

30日23時11分 島根県東部の地震（深さ12km、M3.4）により、安来市で震度２を観測したほか、松江市・雲南市・奥出雲町・邑南町で震度１観測しました。また、鳥取県米子市・南部町で震度２を観測したほか、鳥取県・広島県で震度１を観測しました。

［断面図］

2026 10 01 00:00 -- 2026 10 31 24:00



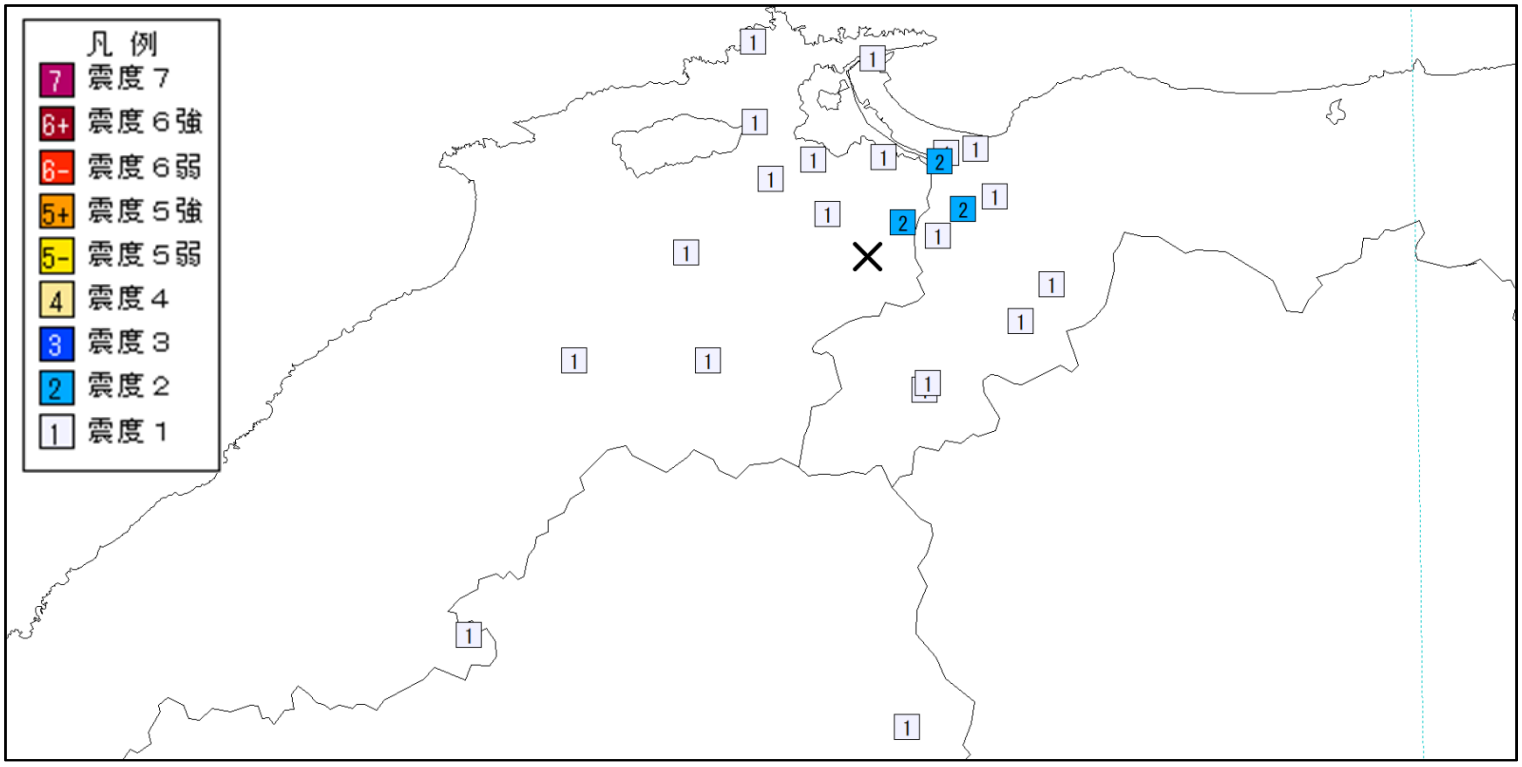
10月の島根県内の地震表（震度１以上）

発震日（年月日時分）　震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（島根県内のみ掲載）				
2026年10月30日23時11分　島根県東部	35° 19.0’ N	133° 13.6’ E	12km	M3.4
---------- 地点震度 ----------				
島根県　震度　2 ： 安来市伯太町東母里＊				
震度　1 ： 松江市学園南＊,松江市島根町加賀＊,松江市東出雲町揖屋＊,松江市八雲町西岩坂＊ 安来市広瀬町広瀬祖父谷丁＊,安来市安来町＊,雲南市大東町大東 雲南市掛合町掛合＊,奥出雲町三成＊,邑南町下口羽＊				

・地点名の後に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【観測点震度分布図】

2026年10月30日23時11分 島根県東部



×印は震央を示す

地震一口メモ

昭和南海地震（1946 年 12 月 21 日）から 80 年～その１～

近畿地方や四国地方を中心に甚大な被害をもたらした 1946 年 12 月 21 日 04 時 19 分、和歌山県南方沖を震源とするマグニチュード 8.0 のプレート境界型地震（以下、「昭和南海地震」という。）の発生から今年（2026 年）の 12 月 21 日で 80 年の節目となります。今月号と 11 月号では、昭和南海地震を振り返るとともに南海トラフ地震の特徴や南海トラフ地震臨時情報について解説します。

＜1946 年 12 月 21 日「昭和南海地震」について＞

昭和南海地震の発生により、北海道から九州地方にかけて震度５～１（当時の震度階級）を観測しました（図１）。また、千葉県の房総半島から九州地方の沿岸を津波が襲い、津波の高さは紀伊半島の南端にある和歌山県の袋で 6.6m、三重県、徳島県、高知県の沿岸で４～６ｍに達しました（図２）。この地震により全国では、死者 1,330 人、住家全壊 9,070 棟、家屋流失 1,451 棟などの甚大な被害が生じ、その多くは津波によるものでした。

中国地方では、岡山県を中心に地震の揺れによる被害が大きく、中国地方全体として死者 62 人、負傷者 209 人、住家全壊 584 棟、住家半壊 2,172 棟、道路損壊 42 本などの被害が生じました。津波については、瀬戸内海沿岸にも襲来しましたが集落への浸水は免れたとされており、顕著な被害の記録は残っていません。

（被害は日本被害地震総覧による）

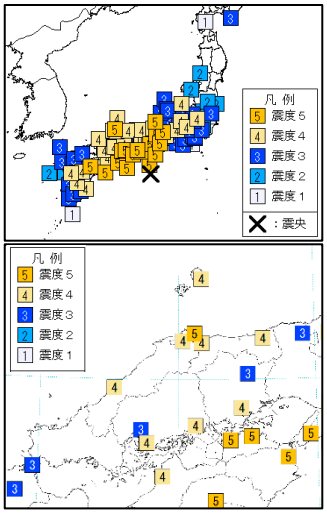
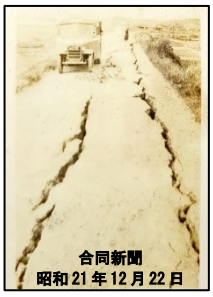


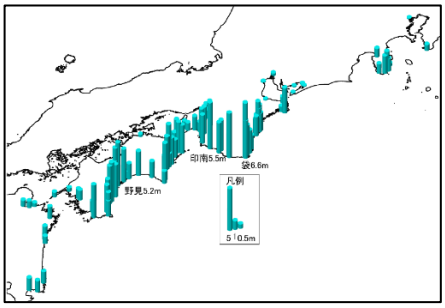
図１　観測点震度分布図
（上：全体、下：中国地方中心）







揺れによる被害写真（岡山県）（岡山地方気象台ホームページより）







津波よる被害写真（徳島県）（徳島地方気象台ホームページより）

図２　津波の高さ（地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について」より）

昭和南海地震の発生から 80 年が経過しようとしている現在では、次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。過去の地震を振り返り、災害から得た教訓を学ぶことにより、突発的に発生する地震に備えておくことが重要です。

（昭和南海地震の記録）

・岡山地方気象台ホームページ：
https://www.data.jma.go.jp/okayama/jishin/showanankai.html

・徳島地方気象台ホームページ：
https://www.data.jma.go.jp/tokushima/shosai/nankai/nankaitop.html